

平成26年11月20日
於
府中市立教育センター

平成26年第11回

府中市教育委員会定例会会議録

府中市教育委員会

平成26年第11回府中市教育委員会定例会会議録

- 1 開 会 平成26年11月20日(木)
午後1時30分
閉 会 平成26年11月20日(木)
午後2時25分
- 2 会議録署名員
委 員 齋 藤 裕 吉
委 員 松 本 良 幸
- 3 出席委員
委員長 崎 山 弘 委員長職務代理者 齋 藤 裕 吉
委 員 村 越 ひろみ 委 員 松 本 良 幸
教育長 浅 沼 昭 夫
- 4 欠席委員
な し
- 5 出席説明員
教育部長 今 永 昇 文化スポーツ部長 後 藤 廣 史
教育部副参事兼指導室長 文化振興課長 英 太 郎
三田村 裕 生涯学習スポーツ課長 矢ヶ崎 幸 夫
総務課長 志 摩 雄 作 生涯学習スポーツ課長補佐 古 田 実
総務課長補佐 北 村 均 図書館長 坪 井 茂 美
学務保健課長 酒 井 利 彦
給食担当主幹 須 恵 正 之
学務保健課長補佐 山 田 晶 子
指導室長補佐 古 塩 智 之
指導室副主幹 阿 部 憲 靖
統括指導主事 日 野 正 宏
指導主事 山 本 勝 敏
指導主事 坂 元 竜 二
指導主事 岡 戸 繁 樹
指導主事 林 田 孝 子
- 6 教育委員会事務局出席者
総務課係長 熊 坂 奈 美
総務課事務職員 平 田 暁

議 事 日 程

第1 会議録署名員選定について

第2 会期決定について

第3 議案

第4 報告・連絡

- (1) 第68回府中駅伝競走大会の開催について
- (2) 片町図書館の臨時休館について
- (3) 府中ジュニアウィンドオーケストラ創立30周年記念第29回定期演奏会の開催について

第5 その他

第6 教育委員報告

午後1時30分開会

○委員長（崎山 弘君） ただいまより、平成26年第11回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○委員長（崎山 弘君） 本日の会議録署名員は、齋藤委員と松本委員にお願いいたします。

_____ ◇ _____

○委員長（崎山 弘君） 会期は本日1日といたします。

_____ ◇ _____

◎傍聴許可

○委員長（崎山 弘君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

_____ ◇ _____

○委員長（崎山 弘君） 本日は、議案の審議はございません。

_____ ◇ _____

◎報告・連絡（1）第68回府中駅伝競走大会の開催について

○委員長（崎山 弘君） 報告・連絡から始めさせていただきます。

報告・連絡の（1）について、生涯学習スポーツ課、お願いいたします。

○生涯学習スポーツ課長補佐（古田 実君） それでは、生涯学習スポーツ課より、第68回府中駅伝競走大会の開催につきまして、お手元の資料に基づきご報告いたします。

例年実施しております府中駅伝競走大会を今年度も、2月11日に府中市と府中市陸上競技協会の共催により、府中多摩川かぜのみちで開催いたします。

この大会は大変長い歴史のある大会であり、昨年の中学校の部では72チームの参加がありました。全体としては342チームで全710人ももの選手が集まり、大変盛り上がるレースとなりました。

そのような中で、運営面につきまして平成24年度からスタート地点などの見直しを行い、郷土の森庭球場北側駐車場に移したこと。また、かねてより危険との指摘のあった自転車利用者との接触事故防止のため、自転車通行規制を行うこととしたことで、安全面ではより一層の向上を図っております。

最後に、参加チームの募集につきましては、11月11日号の『広報ふちゅう』に掲載のほか、各中学校長宛てにご案内を送付しております。

教育委員の皆様におかれましては、改めてご案内状をご送付いたしますので、生徒への温かい応援をいただければ幸いと存じます。

以上でございます。

○委員長（崎山 弘君） ただいまの報告につきまして、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員（松本良幸君） 私は、初めて昨年度参加させていただきまして、委員長をキャプテンに走らせていただいて、皆様の日ごろのご協力ということで、参加する側からとても感謝したいなというふうに思っております。また、特に今年は雪が降って大変だったところだった

と思うのですけれども、それを短い時間でご準備いただいて、一市民としてとても感謝申し上げたいなというふうに思っておりますので、今年度の大会もぜひ皆様のご協力をいただいて、いい大会にさせていただければと思います。感謝の気持ちでございました。

○委員長（崎山 弘君） ありがとうございます。ほかに何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは報告・連絡（1）について了承いたします。



◎報告・連絡（2）片町図書館の臨時休館について

○委員長（崎山 弘君） 続きまして報告・連絡（2）について、図書館、お願いいたします。

○図書館長（坪井茂美君） 図書館より、お手元の資料2に基づきまして、片町図書館の臨時休館についてご報告いたします。

1の趣旨につきましては、平成27年1月末まで、片町文化センターの冷暖房設備の交換工事を行います。それに伴い、片町図書館部分を工事する期間を、利用者と職員の安全を考慮し、臨時休館とするものです。

2の日程は11月23日祝日から12月2日火曜日までの10日間でございます。工事期間は12月1日月曜日までとなりますが、この期間、館内に入ることが困難なことから、12月2日火曜日の1日、返却資料の棚出しや予約本の準備、書架整理など、開館準備を予定しております。

3のその他でございますが、①の周知につきましては11月21日号『広報ふちゅう』の掲載やメール配信サービス、図書館ホームページへの掲載、チラシ、ポスターなどで既に行っておりますが、近隣の図書館も含め、来館された利用者には手渡しでチラシをお渡しし、説明をしております。

②のブックポストについてはご利用いただけるとともに、現在臨時休館に関するポスターも掲示し、周知を図っております。

以上でございます。

○委員長（崎山 弘君） ただいまの報告につきまして、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告・連絡（2）について了承いたします。



◎報告・連絡（3）府中ジュニアウィンドオーケストラ創立30周年記念

第29回定期演奏会の開催について

○委員長（崎山 弘君） 続きまして、報告・連絡（3）について、文化振興課、お願いいたします。

○文化振興課長（英 太郎君） それでは、文化振興課より、府中ジュニアウィンドオーケストラ創立30周年記念第29回定期演奏会の開催について、ご報告いたします。お手元の資料をごらんください。

府中ジュニアウィンドオーケストラは、昭和59年（1984年）に府中市教育委員会が青少年の情操豊かな成長を願い、設立いたしました。今年で、創立30周年を迎え、創立時には

45名だった団員数も、現在では75名となりました。指導者には国立音楽大学名誉教授の大坂泰久氏を初め、楽器ごとに専門の講師を迎え、週一回、生涯学習センターで練習をしています。

今年の定期演奏会では、ゲストとして指揮者の小林恵子さんとマリimba奏者の西久保友広さんをお招きいたします。お二人は、府中ジュニアウインドオーケストラの卒団生で、現在は国内外でご活躍されています。

演奏会は12月21日日曜日。午後1時半開演で、府中の森芸術劇場どりーむホールで開催いたしますので、どうぞご来場ください。よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○委員長(崎山 弘君) ただいまの報告につきまして、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告・連絡(3)について了承いたします。



◎その他

○委員長(崎山 弘君) それではその他になりますけれども、何かございますでしょうか。

○学務保健課長補佐(山田晶子君) 学務保健課から、2件ご報告をさせていただきます。

まず、1件目でございますが、インフルエンザ様疾患による学級閉鎖についてでございます。2件目につきましては、市立小学校における感染症の調査結果についてでございます。

まず、1件目でございますが、本市における今季初のインフルエンザ様疾患による学級閉鎖の報告が、11月17日月曜日にありましたので、お知らせいたします。

学級閉鎖を実施したのは中学校第1学年の2クラスで、78人の在籍者に対し、インフルエンザ様疾患による欠席者が26人となっており、学級閉鎖期間は11月18日火曜日から20日木曜日の3日間でございます。これを受けまして市立小中学校及び幼稚園に対し、学級閉鎖の実施について情報提供するとともに、手洗いの励行、咳エチケットの啓発について周知し、予防に努めているところでございます。

次に、2件目でございますが、府中第三小学校第5学年が本年6月に実施いたしましたセカンドスクールにおける感染症について、東京都多摩府中保健所より、10月17日付で「クリプトスポリジウム集団感染事例の調査について」が報告されましたので、お知らせいたします。

報告内容は、長野県その他関係自治体の調査結果を踏まえ、八ヶ岳ふれあいファームにおいてクリプトスポリジウムに暴露した可能性が高いと推察されるが、当該施設における感染経路及び原因食品の特定ができないことから、食中毒と断定するには至らなかったというものでございます。

本市のセカンドスクールは10月31日をもって全校の実施が終了となりましたが、セカンドスクールにおける感染症等に対する課題を関係機関と連携して検証するとともに、来年度以降の実施に向け、当該施設の利用の可否など方向性を検討し、児童の安全確保などに努めてまいります。

報告は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長(崎山 弘君) ただいまありましたインフルエンザ並びにクリプトスポリジウムに

関する報告、何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

ほかに、その他でなにかございますでしょうか。



◎教育委員報告

○委員長（崎山 弘君） ないようですので、では教育委員の報告に移りたいと思います。

○委員（村越ひろみ君） では、村越から報告させていただきます。

委員となって3年目となるので、年間を通して参加する事業も3回目となりますので、今まで報告の仕方を時系列に全て言っていたのですけれども、主だったことを報告していくようにしようと思いますので、よろしくお願いします。

10月19日、府中市制施行60周年「喜びの集い」に行つてまいりました。市制60周年を機に、府中市に貢献され表彰された方、また感謝状を受けられた方と、多くの関係者の参加のもとで盛大な式典「喜びの集い」に参加できたことに大きな喜びを感じました。市の職員の方の司会もとてもやわらかな感じでよかったです。また、市長の「市民協働宣言」では高野市長の本当に府中市に対する熱い思いも聞くことができました。

10月20日と21日、セカンドスクール、小柳小学校の視察に伺いました。委員になって初めての八ヶ岳でのセカンドスクールでした。初日からあいにくの雨で、清泉寮では散策できたものの、キャンプファイヤーはできませんでした。それでも先生方がいろいろ考えてくださり、夜は集会室でのキャンプファイヤーリハーサルということで行われていて、子どもたちはゲームやフォークダンスを楽しみ、私たちも一緒に参加させていただいて、楽しいひとときを過ごすことができました。

翌日は、八ヶ岳中央農業実践大学校でのカレーづくりの体験を見学させていただきました。着いたときには霧がかかって本当に何も見えない状態でしたが、次第に霧も晴れて太陽も見え隠れするほど天気も回復し、そんな中でカレーづくりのための準備を進める子どもたちの様子を見ることができました。カレーづくりでは、大人が手を出さずに野菜を切ったり、火を使ったり、怖い思いや痛い思いをするという体験をすることが、子どもたちにとって必要なのだと思いました。

子どもたちが過ごす5日間のうちの2日間だけ一緒に過ごさせていただきましたが、生活するための役割、集団行動で大切な時間を守ることなど、子どもたちはしっかり学んでいくのだと感じました。また、5年生の担任の先生は5日間家をあけることになり、その条件を満たす先生を選任することの苦労もあると聞きました。5日間子どもたちと過ごし、指導に当たり、安全を守るという職務を果たしてくださっていることに敬意を表したいと思います。

そして最後、帰りのちょっと前に最後の視察場所として、リニア見学センターに行きました。大変短い時間ではありましたが、時速500キロの世界を体感することができ、また実際に走行試験を見ることもできました。

10月25日土曜日、給食展・大試食会に伺いました。3年ぶりの開催となった試食会でした。とても天気がよく、大勢の子ども、親子連れが参加していました。就学前のお子さんを連れて試食できることはよい経験だなど、また入学を楽しみにできるのだなどと思いました。試食した給食をおいしくいただくことができ、また栄養士さんのお話も伺うことができました。今

の子どもたちの中には味覚の発達が十分でない子どもがふえているということもあるので、なるべく薄味のを食させ、また和食離れを解消することが大切だとのお話でした。

会場内にはさまざまな体験ブースが設置されていて、子どもたちは目をきらきらさせて楽しんで学んでいるようでした。新しい給食センターになると、スペースがこれほどとれるかと心配もあるようですが、ぜひこの試食会を続けていってほしいと思います。

10月29日水曜日、小中連携の日ということで、この日四小ブロックだけだったのですけれども、伺ってまいりました。六中学区は小中連携としてかかわる学校が六中、四小、小柳小、南白小の4校ということで、中学校に対して1校ずつのかかわりだと、3年に一度の交流になってしまうということで、3年のサイクルの中で2年間は交流できるように、小中、小中の連携を図るようにしているという工夫を聞きました。また授業を見て回るときの資料として、いつも授業参観とか、公開授業とか行くと膨大な、ものすごい資料もあるのですが、とても平原先生が工夫されていて、1クラスがA4の用紙に、上半分は授業の狙いとその授業の内容、あと下には板書というふうにするというふうな、本当にA4 1枚でぱっとわかるような資料でしたので、数分しか見られない授業でも、今どこでどんな授業をしているということがよくわかってとてもわかりやすい資料だと思いました。ほかでも何かそんなふうになると、素人の私たちでも見やすいのかなというふうに感じました。また、四小の子どもたちはいきいきと授業を受けていて、先生方の熱心さも感じることができました。

こうして小中連携の日を設けることで、お互いの先生方の理解が深められ、小中間の教育活動が明確化していくのではないかと思います。この日、坂元指導主事には一日一緒におつき合いいただいて、いろいろご説明をいただいたので、授業を見る視点というものが少しだけ変わった感じがしました。ありがとうございました。

11月3日、掩体ごうの見学でしたが、午前中ちょっと仕事が入ってしまって伺えなかったのですけれども、公開の終わり30分前ぐらい、3時半ぐらいに入りました。担当の方がいらしたのでお話を聞いたところ、今年は来場者数が100名近くだったという話を聞いて、昨年よりも少し多くいらしたということでした。その理由は何でしょうかねと聞いたところ、天候もよかったし、10時と14時に説明会を実施するというのを広報で見たという方が多かったということでした。大分周知されてきているのではないかとということでしたが、今後さらなる周知を拡大して、多くの人に見てもらえるといいなと思いました。

あと、ほかにもたくさんいろいろな行事があったのですが、四谷小と八中の周年式典、五中の合唱祭、府中の教育を語る会、三中与日新小への委員会訪問にも参加したことをご報告させていただいて、終わりにしたいと思います。

○委員長(崎山 弘君) ありがとうございます。次は齋藤委員、お願いします。

○委員(齋藤裕吉君) それでは、齋藤より報告をさせていただきます。

前回の教育委員会定例会以降ということで、10月17日金曜日、新町小学校の研究発表会に出席をいたしました。ここは「自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成」という研究テーマを掲げて、算数科の授業改善についての研究発表ということでございました。算数における学習過程を課題把握、自力で解決、学び合い、まとめというプロセスを通して、自分の考えを持って、友だちと学び合う中で友だちの考えのよさを認め、深め合う児童を育成しようと

いうふうな、とても積極的な取り組みであったと思います。

学校というのはもともと子ども同士の学び合いがあってこそ学校であるというふうにいえると思っております。その基本を踏まえての授業で、それを具現化しようとする研究であったと思いました。

次に10月19日日曜日ですけれども、私も府中市制施行60周年記念「喜びの集い」に出席をいたしました。式の終わりのほうで、「市民協働都市宣言」という宣言の朗読を行いましたけれども、それを聞きながら、市の教育委員会が進めているコミュニティ・スクールとか、小中連携の推進、こういったことがまさに協働、協力して働く、協働の方向に沿った施策となっているというようなことを思いながら、この宣言を聞いておりました。

次に10月20日月曜日、八ヶ岳のセカンドスクールに私も参加をいたしましたけれども、別の都合もございまして、日帰りの視察というふうになりました。小柳小学校に同行して、子どもたちの活動の一端を見せていただきました。ここもあいにくの雨となりましたけれども、初日であるためか、子どもたちは元気いっぱい、やや興奮気味に見えました。八ヶ岳山荘では、地下のボイラー室など、これまでのぞいたことのないような部分も案内をしていただき、大変参考になりました。また、宿泊学習というものの意義などについて、また改めて考える機会、よい機会になったと思っております。

次に10月24日金曜日、四谷小学校の創立40周年記念式典に出席をいたしました。開会前の子どもたち、みんな、とても笑顔でうれしそうな表情でいるのがとても印象的でした。そして、また児童代表の言葉がとても立派ですばらしいとおもいました。校長の式辞の中で語られておりました四谷小の40年の歴史というものが、その四谷地区の発展の歴史でもあるなどというふうなこと、地域とともに歩んでいる四谷小ということがよくわかるような式典であったと思います。

10月25日土曜日は、給食展・大試食会に参加をいたしました。学校給食センターでの給食関係の展示や食材、農林業者等の食品の販売の様子などの見学をし、給食の試食をさせてもらいました。給食はとてもおいしくいただきましたし、参加者はとても多くて、学校給食というものに対する関心の高さを改めて伺うことができたと思っております。

今後こうした試食会の企画を新しい給食センターという形で今後進めていく場合、どのような企画をしていくのかなと、いろいろ工夫が必要であるかなというふうなことを思いました。

11月1日土曜日、芸術劇場で行われた府中市立中学校連合音楽会に出席をして、午前の部の吹奏楽演奏を鑑賞いたしました。学校ごとに曲目は違いますけれども、その演奏ぶりから伝わってくるものも、それぞれの学校ごとの特徴があるように思われて、おもしろかったと思います。そしてまた中学生という時期には、本当にいろいろな面で、例えばこの演奏というようなものでも急速に力が伸びる時期なのだということ、改めて、その演奏を聞きながら感じた次第です。

次に11月1日、生涯学習センターで行われました「府中の教育を語る会」に出席をしまして、教育委員会の挨拶を述べました。「郷土府中を愛する心 地域に密着した教育活動を考える」というテーマのもとで、小柳小や府中三中の実践報告、そしてまたパネルディスカッション、教育長のご講演をお聞きしながら、これからの府中市の学校教育のあり方を改めて考えて

いました。

その中で一つ考えたことは、コミュニティ・スクールについてです。学校側にとってのメリット、ここだけを取り上げて強調していたのでは、もしかすると長続きしないのではないかと。やはり、地域社会にも確かなメリットがあるという点を明確に説明していく必要があるのではないかというふうなことを、このお話の中で、改めてそういう思いを持ちました。

次に11月7日金曜日、第八中学校の創立40周年記念式典に出席をいたしました。簡素な中にも厳粛な雰囲気のある、大変すばらしい式典であったと思います。生徒たちの引き締まった態度、全員合唱など、日ごろの教育指導の成果がよくあらわれていた式典であったと思います。

11月9日日曜日、府中市総合体育館で行われた府中市市民体育大会の秋季大会閉会式に出席をいたしました。

11月13日、教育委員会訪問だったわけですがけれども、この日も私、別の都合との重なりがあって、午前中だけの第三中学校訪問という部分に参加をいたしました。やっぱり一番感じましたことは、校長が説明しておりましたけれども、きれいな校舎をきれいなままに引き継いでいくという姿勢で教育活動を進めているということ。その言葉がとても印象に残りました。やはり、学校は環境としてきちんと整えられている、きれいであるということが、子どもたちにも生活の規律性と気持ちの張りを持たせる上でとても大事なことではないかということを変更して感じました。

最後に11月16日、武蔵府中青色申告会主催の「第2回小学生の税の書道展」の表彰式に出席をし、審査の講評を述べてまいりました。こういう形での租税教育ということも効果的であるというふうに思いました。

私からは以上です。

○委員（松本良幸君） はい、それでは松本よりご報告させていただきます。ちょっといっぱいありますので、少しご辛抱ください。

10月17日、新町小学校の研究発表会に伺いました。テーマは「自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成」ということで、算数の授業を中心に行われていました。私が授業参観で強く感じたのは「ともに学び合う」という部分に係るのですけれども、算数の授業でも国語力、表現力がとても重要であるということです。児童たちは、算数としての理解は十分できていても、先生の指示を的確に理解する力や自分が伝えたい内容を言葉にする力の部分で、少し歯がゆさを感じました。英語を学ぶ前に国語をしっかりと学ぶべきかなと感じた研究発表でした。

10月19日、府中市市制施行60周年記念「喜びの集い」に出席してまいりました。式典では、第五小学校児童作詞による記念ソングの発表や、府中少年少女合唱団を初め、市民参加の合唱等が披露されました。式典の最後には高野市長と市民代表の方々5人により、「市民協働都市」が宣言され、次の10年に向けた新しいスタートとなりました。

10月20日、21日、小柳小学校5年生のセカンドスクール視察に伺ってまいりました。視察は最初の2日間ではありましたが、児童たちの表情は初めての長期集団生活にもかかわらず、皆さん緊張した表情もなく、それぞれに割り当てられた役割を果たし、笑顔で活動してい

ました。あいにくの雨で当日のキャンプファイヤーは中止となってしまいましたが、時間的に余裕のあるセカンドスクールの特性を生かし、後日無事実施できたとのことでした。

翌日は農業実践大学校での調理体験の様子を視察させていただきましたが、多くの指導者が各部門についてくださり、的確な指導をされていました。

5日間の長期にわたる行事ですので、先生を初め、付き添われる皆さんのご苦労は大きなものと思われませんが、児童たちにとってはほかでは体験することのできない大きな財産になることは間違いないと思います。校長先生を初め、先生方のご指導や施設管理者、ボランティア、そして学務保健課の皆様のご協力で、このような活動が実践できますことを深く感謝申し上げたいと思います。

10月22日、若松小学校で開かれた「小・中連携の日」の活動を視察してまいりました。授業参観の後、各分科会に分かれて、先生方が情報交換をしました。私は「育ち分科会」に参加しましたが、小中学校で生徒に関する情報交換が行われ、適切な準備や対応が図られていることがうかがえました。小学校の先生方も、送り出した児童が中学校で落ちついた生活を送れているとの報告に、安心した表情をされていました。今後もこのような機会を通して、小中連携の方策について、研究を進めていっていただきたいと思います。

10月24日、四谷小学校40周年記念式典、11月7日、第八中学校40周年記念式典に出席してまいりました。どちらの学校も歴代の教職員、地域の方々に支えられ、歴史を重ねられてきたことは素晴らしいことだと思います。式典に参加された児童、生徒たちの態度はとても立派で、合唱や演奏も素晴らしいものでした。これからも地域の特色を生かし、発展されることを期待したいと思います。

10月25日、給食センターで開催された第9回給食展・大試食会に伺いました。会場では栄養士さんによる栄養バランスの解説や給食の歴史展示、給食で提供しているパンやお米の直売など、多くの市民、子どもたちが訪れて、盛況に開催されていました。また、試食会場では、和食をテーマにした給食センター自信作の給食が提供され、私も高野市長やほかの委員の方々とおしくいただきました。

大規模施設だからと言って、機械的な大量生産のイメージを憂う意見もありますが、このような機会にご参加いただければ、調理師さんや栄養士さんたちが、いつも心を込めて子どもたちのために給食をつくってくださっているということが理解でき、誤解が解けるのではないかと感じました。

11月1日、どりーむホールで開催された府中市中学校連合音楽会に出席してまいりました。出場された中学校の技術レベルはとても高く、感動の連続でした。これまで練習を頑張った生徒の皆さんとご指導くださった先生方に大きな拍手を送りたいと思います。

同日11月1日午後は、生涯学習センターで開催された「府中の教育を語る会」に出席してまいりました。壇上ではふるさと府中を理解し、愛する心を育む取り組みについて、小柳小、第三中学校の活動が発表された後、コミュニティ・スクールへの協力者を中心としたの方々によるパネルディスカッションが行われました。第2部では、府中市教育長浅沼先生により、施設分離型小中連携の取り組みや、コミュニティ・スクールの取り組みなど、府中市が進める教育施策について、わかりやすくお話いただきました。

このような機会を通して、多くの市民の皆様にも府中市教育委員会の方向性を示していくことはとても大切なことであると思います。

11月3日、市内小学生によるラグビー大会「第8回フォーリスカップ」に参加してまいりました。この大会も回を重ね、とても多くの学校、チームの参加があり、ラグビーというスポーツを身近に感じてもらうとてもよい機会になっていると思います。大会では主催してくださっているフォーリスの方々や日本のトップを走るサントリー、東芝のラグビーチームを初め、多くの関係者、先生方のご協力をいただき、児童たちがとても貴重な体験をさせていただけることに深く感謝申し上げたいと思います。

11月10日、東京都市町村教育委員会連合会第2ブロック研修会に参加してまいりました。研修会では文部科学省教科調査官、田村学氏による「学力向上の現状とこれから」について、講演がありました。21世紀型学力の育成については指導時間が縮小される傾向にある総合的な学習の時間の意義や成果について改めて評価し、受け身ではなく、児童みずから課題を設定し、情報の収集、整理、分析をする力をつけていくことが重要であるとお話してくださいました。

また、お話の中で聞き手の集中力を高める方法として、興味深いテクニックをご教示いただきました。その方法はとても簡単なもので、それは……と沈黙の間を設ける方法だそうです。早速試させていただきましたが、いかがだったでしょうか。ただ、多用すると相手をいらいらさせてしまうので、注意が必要だそうです。

11月13日、教育委員会訪問で第三中学校、日新小学校へ伺いました。第三中学校は新しく建てられた学校ですので、とてもきれいでしたけれども、現在もきれいに使われており、生徒たちもとても落ちついていました。これもすばらしい環境と谷合先生を初めとする先生方の指導力のあらわれであると感じました。

日新小学校は地域との連携がとてもよくとれている学校であると感じました。今後もこの体制を保って、よりよい学校にしていただきたいと思います。

最後、11月16日、武蔵府中青色申告会主催の「小学生の税の書道展」表彰式に出席してまいりました。展示スペースでは、入選者の力強い作品が張り出され、どの文字も心のこもったすばらしい作品でした。来賓のご挨拶では、租税の意味や大切さについてお話がありましたが、子どもたちの参加、協力に対し、行政、教育に携わる私たちも大切な税金を心して、無駄のない使い方をしていくべきであると改めて感じました。

以上で私からの報告を終わります。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、浅沼が幾つかピックアップして、ご報告いたします。

10月17日、新町小学校の研究発表会に参加しました。授業では具体物を提示しながらの足し算や掛け算の指導、三角形や面積の計算場面では児童の発言を大切にしながら、授業が進められていました。また、分数の計算では目盛りつきの升を使って様子を確かめるなど、工夫を凝らした授業でございました。算数が好きとか、楽しいと答えた児童のアンケート調査がそれぞれ83%、90%という数字が、先生方の努力の成果を示しているというふうに感じました。

10月18日土曜日、午後4時から市制施行60周年記念式典の前夜祭に出席しました。翌日19日ですけれども、「喜びの集い」が開催され、出席しました。60周年を祝ってのセレ

モニー、小中学生から高校生、還暦合唱団による合唱、未来の府中をテーマにした中学生の作文発表、小学生から募集した歌詞優秀作品に坂田おさむさんが作曲していただいた「きいていたいな 府中の音」など、大変私がうれしく思ったのはこのセレモニーに小中学生を前面に押し出していただき、夢と希望の未来を演出していただいたこととさせていただきます。先ほど齋藤委員からもご指摘がありましたけれども、「市民協働都市宣言」は、府中のコミュニティ・スクール、あるいは小中連携、一貫教育の推進ということでの理念と合致するのかなというふうに思っております。

続いて10月22日、第2回目の小中連携の日として、第五小学校での授業と研究協議に参加しました。今回は連携校では第十中学校の先生方が参加しました。第五小学校は研究協力校でもあり、高学年での教科担任制や少人数指導に取り組んでいます。協議会では教務、研究、生活指導、特別活動の4つの分科会で活動内容や課題、重点や研究内容について話し合わせ、その後の全体会で報告がありました。先生方の様子からは前向きに課題を捉えて取り組もうとしている熱心な姿がうかがえ、大変感謝しております。

続いて10月24日、四谷小学校の創立40周年記念式典に参列しました。児童の落ちついた姿や合唱、演奏に指導の充実ぶりを感じました。理科生活科での研究実践にも取り組んでいただいております。施設では、創立20周年のときにつくられた「歴史の小部屋」が、四谷地区で使われてきたさまざまな道具や資料が展示されており、大変見応えがありました。さらに地域の歴史と移り変わりを収録した冊子『よつや』はわかりやすく、しかも興味や関心を高める編集がなされておりまして、地域学習や子どもたちの地域への帰属意識を高める効果があると思えました。伺うと周年ごとに改訂されて、新入生の分も用意されているということとございまして、地域と一体になって子どもたちを育てようという機運を強く感じました。

10月25日、給食展・大試食会に参加しました。健康や体づくりを通して子どもたちの将来に影響を与える食育、とりわけ給食の食材に関してはさまざまな意見が寄せられ、関心が高まる状況でございますけれども、厳格な食材選定の内規や手づくり給食により、おいしくて安心安全な給食の提供というコンセプトを貫いてこられたことに、改めて私自身も敬意を表したい気持ちでいっぱいでございます。新しく建設される学校給食センターでも、この理念を継承しながら、アレルギー対応など、高まる目標とされる学校給食センターの建設に向けて、英知を結集できたらというふうと考えております。

それから11月1日、中学校の連合音楽会に参加した後、「府中の教育を語る会」に参加しました。小柳小学校と第三中学校の実践報告、続いて校長先生やPTA会長、コミュニティ・スクールのコーディネーターの方々のパネルディスカッションを受けまして、学校と地域の連携を中心に、小中連携と府中のコミュニティ・スクールの意義について、日ごろの考えている私の思いを聞いていただきました。

最後にしたいと思います。11月13日、教育委員会訪問で、府中三中と日新小学校を訪問しました。三中における授業改善や研究活動では、校長先生の強いリーダーシップにより、多くの成果が得られていることを感じました。中でも小中連携やキャリア教育など、きちんと理論立てしてわかりやすく提示し、推進体制を構築している実践に対して、今後の運営に期待しているところです。

また、日新小学校では、かつての小規模だった児童数が、校区の開発が進み、年々増加してきた状況に対応するための校舎等々の状況や地域の方々の支援による伝統の菊づくり、さらには不登校児童がゼロということも、安定した教育活動の成果の一つであるように思いました。

ほかにもございますけれども、これぐらいにとどめたいと思います。

以上です。

○委員長（崎山 弘君） ありがとうございます。それでは最後に崎山のほうからご報告いたします。

前回の教育委員会定例会からは、セカンドスクールの視察、周年行事、フォーリスカップなど、数多くの行事に参加いたしました。私は11月13日に実施した教育委員会訪問についてのみ報告いたします。

1つ目の訪問校は府中第三中学校でした。齋藤委員、松本委員も述べておられましたが、7年前に新設された校舎を大変きれいに使っていただいております、子どもたちも愛着を感じる様子が見えました。小中連携につきましても、小学校6年間と中学校の3年間を通した合計9年間の見通しを持った計画をもとに実行されている点が好ましいと感じました。

2つ目の訪問校である日新小学校では2点ご報告いたします。まず、日新小学校は生徒用の昇降口の明かり取り窓が天井部分に設置されており、その窓は校舎2階の廊下に隣接する屋根に位置しています。廊下から屋根につながる部分の窓は大きく開くことがないので、子どもたちが窓の外に出ることはできず、天窓の部分に近づくことができない構造になっていますから、安全面で直ちに問題があるという状況ではありません。しかし、日本スポーツ振興センターの報告書を見ると、昭和58年度から平成18年度の24年間に天窓から転落した事故は死亡事故で5件、傷害事例は1件あります。天窓からの転落による死亡、傷害の事故発生件数は他の事故に比べると多くはありませんが、天窓を突き破る事故は格子を天窓の中、あるいは外側に設置するなど、比較的簡単な物理的対策によって確実に防止できることが特徴であり、現実的に高い事故防止の可能性を期待することができます。市内小中学校で天窓、明かり取り窓の現状を確認して、必要であれば対策をとっていただけることを願います。

もう1点は、これは日新小に限ったことではないのですが、平成23年9月5日から市立小学校全校で1日1回、校庭の空間放射線量を地表面から高さ1メートルと5センチメートルの2カ所で測定とその結果発表を続けています。今回の日新小学校の教育委員会訪問でも、一定の高さで測定することが便利なように、お手製の木製計測台が玄関のところに置いてあるのが確認できました。この測定結果は、毎日府中市のホームページに掲載されており、過去のデータも閲覧できるようになっています。

この放射線測定について、幾つかを確認してみました。小学校では主に副校長先生が計測に当たっておられるようです。子どもたちや保護者の対応などで忙しい中、毎日欠かさず計測していただき、ありがたく思います。このような地道なデータ収集は、継続することに意義があることも事実ですが、データは有効に活用しなければ、数値そのものにはほとんど意味はありません。学力テストの結果、公表も同様ですが、現状を評価するために、どのように解釈できるかを示す必要があります。そのような視点でこの測定結果が府中市で利用された経緯は、残念ながら見当たりませんでした。

そこで現在公表されている数値に簡単な統計的処理を加えてみました。お手元に配付しました資料をごらんください。A4判横長で6枚がホッチキスでとめてあるのがお手元に配られていると思います。

資料の1枚目、2枚目は府中市がホームページで公表しているデータそのものです。ここに示すように、各学校の値とその平均値が1週間ごとに1ページにまとめられています。1枚目の資料は測定を開始した平成23年9月5日からの1週間、2枚目は平成25年11月11日からの1週間です。このように数字を羅列するだけでは、校庭の放射能は低下しているのか、変化がないのか、増加しているのかがわかりません。

資料の3枚目をごらんください。ここでは平成23年9月、平成24年9月、25年9月、26年9月の最初の3日間の数値を抜粋しました。何となくこの3年間を経過して、下がっているような傾向があるように見えますが、日によっては前日より高い日もあって、一定の傾向があるようには見えません。そこで、既に公表されているデータを利用して、この3年間で府中市の小学校での放射線量がどのように変化したのかを明らかにするために、このようにデータにばらつきがあるときの処理方法として、よく使われる単純移動平均法というのがあります。ですけども、この単純移動平均法を利用して検討を加えてみました。その方法を、皆さんに簡単に説明します。

資料の4枚目をごらんください。数字ばかり入っているところです。この表は、表計算ソフトのエクセルを利用して私が作成したものの一部です。一番左の列に日付が記載されています。小学校で放射線測定が開始された平成23年9月5日から全ての日付が縦に順番に記載されており、その横の列に「0.058」、「0.065」などの数値が記載されていますが、これはその日付に示されたその日の府中市小学校2校の放射能の平均値を左側に地上100センチメートル、右側に地上5センチメートルの値を示しています。この数値は府中市が公表しているデータをそのまま入力しました。先ほどごらんいただいた資料1枚目の表の一番下の部分に平成23年9月5日から9日までの高さ100センチ、5センチの数字が記載されていますが、この表の数値と同一であるものであることがおわかりいただけると思います。

次の列、「1年分のデータ数」と書いてある欄ですけども、これは例えば一番上の「199」という数字ですが、これは平成23年9月5日からその1年後の平成24年9月4日までの366日間、平成24年はうるう年なので366日間なのでですけども、夏休みや土日などのデータの測定を行わない日を除いて、何日間データをとったかという日数が記載されています。

次の列、「100センチメートル1年間合計」の欄は、例えば一番上の行は「12.106」と書いてありますが、これは平成23年9月5日、開始した日です。そこから1年後の平成24年9月4日までの1年間に199回測定された高さ100センチメートルの値の合計値です。次の年の平均値は、その1年間の合計12.106を199で割った値です。つまり、平成23年9月5日から平成24年9月4日までの1年間で平均を求めています。同じようにして、次の行は平成23年9月6日から翌年9月5日までの1年間の平均を求めている。3行目は平成23年9月7日から翌年の9月6日までの1年平均を求める。この作業をずっと繰り返します。つまり、常に1年間の調査結果の平均値を求めます。これは季節や天候などの変動

を除外するためです。例えば商店が、夏と冬で売上高が高い低いにばらつきがあるときに、どうやってうちの商店は営業が伸びているのか下がっているのか見るときに、1年間の平均を1回ずつを出していくとそれが除外できるという同じような理由です。そういう形で値を出してみました。これを比較することが、その出てきた平均値を比較することで、この単純移動平均法というのを利用します。

資料の5枚目をごらんください。この同じ表、続きの部分です。もうかなり最後のほうなのですけれども、この日付をごらんいただくとわかりますが、「平成25年11月15日」のところで高さ100センチの「平均値」で「0.051」、5センチが「0.054」で、ここで途切れていますが、これは11月15日以降は1年365日分のデータがとれません。なぜかという、この調査が1年間まだ続いているのですけれども、この表を作成したのが11月15日であったので、11月16日以降は1年分のデータがそろっていないので、単純計算ができないということでここで数値は終わっています。

この計算を平成23年9月5日から平成25年11月15日まで継続した結果を、資料の6枚目にグラフとしてわかりやすくまとめましたのがこれです。実線は校庭高さ5センチでの移動平均値の推移、点線は高さ100センチでの移動平均値の推移です。この3年間の経過の中で、小学校の校庭の放射線は、確実に下がってきています。少なくとも上昇する傾向は全くありません。

自然界にもともと存在する放射性物質以外で、校庭の高い放射能の値の発生源となっているのは、福島の原子力発電所の事故で発生したセシウムです。このセシウムは皆さんご存じのとおり、津波による電源喪失で冷却不能に陥った原子炉が、1,800度以上の高温になったために溶けた核燃料棒から気化して、大気中に放出され、風に乗って府中市まで飛散したものであるのは明らかです。しかし、現時点の福島原子力発電所は原子炉が停止しているので、新たなセシウムはほとんど発生していません。セシウムの沸点である671度まで福島の原子炉が加熱する可能性はほとんどないこと。この2点により、今後、放射性セシウムが、福島の原子力発電所から府中市の小学校の校庭に新たに飛来することはないと思われます。また、山などに降った雨が、校庭に流れ込むような地形を持っている校庭は府中市には今、存在しません。

今回検証したように、府中市のデータも放射線量が減少していることを示しています。つまり、3年前に府中市に飛来しているセシウムが、雨などの影響で校庭に集まってくることはないと思われます。今後、府中市内の小学校の校庭で放射線量が増加する危険性は、ほとんどゼロに近いことがわかりました。

このような状況から、市内小学校、中学校、幼稚園の校庭で教職員が時間をかけて、連日放射能測定を実施して、その結果を発表するという方法は見直しの時期になったと考えられます。今後どのようにするかは、また検討が必要だと思いますが、検討していただけるようお願いしたいというふうに、今回の報告を見て感じました。以上です。

それでは、これをもちまして平成26年第11回府中市教育委員会定例会を終了といたします。どうもお疲れさまでした。

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証
するため、ここに署名する。

平成27年1月15日

府中市教育委員会委員

松本 良幸

府中市教育委員会委員

齋藤 裕吉